

# ANAROOTの基本部分

- TArtCalibPlastic, TArtCalibIC, ...
  - Raw(ch)をnsやMeVにCalibrationする部分 (ANAPAWのenc\_XXXに近い)
  - TArtPlastic, TArtICがADCやTDCの値を持つクラス
  - Calibration用のパラメータとしてTArtPlasticPara, TArtICParaなどのクラスがある。
  - Calibrationに関する部分を書き換えたいときにはTArtCalibXXXを変更すればよい。
- PIDなどTArtPlastic, TArtICの情報を組み合わせる場合の書き方はあまり固まっていない？その辺はTArtRecoXXXなどを参照。

# マクロの解説

- TArtStoreManager
  - 解析してCalibrationした値やパラメータの窓口
- TArtEventStore
  - RawDataの窓口
- TArtXXXParameters
  - パラメータの読み込みや、呼び出し
- TArtCalibXXX
  - RawData(ch)をCalibrationしてnsやMeVにする部分
- **基本的な解析の流れ**
- パラメータを読み込む。
- ヒストグラム、Treeの定義
- Rawdataをインプット
- ループの中で
  - 1イベントを取得し、
  - TArtCalibXXX->ReconstructData()で計算
  - 計算された数値を取得してヒストグラムに詰める、treeに詰める
  - TArtCalibXXX->ClearData()、TArtEventStore->ClearData()で初期化
- を繰り返す。

# パラメータを追加するには？

- TArtXXXParaにパラメータを追加する
- TArtBigRIPSParameters,  
TArtSAMURAIParametersなどでパラメータを  
読み込んでいるので、そこに追加したパラ  
メータを加える。

# SAMURAIのCommissioning実験と Dayone実験

- SAMURAI Commissioning実験
  - 2012年3月。初めてのSAMURAIの実験
- SAMURAI Dayone実験
  - 2012年5月。初めての物理実験
- これらでは少し実験セットアップが異なる部分がある。
  - SBTの厚さ (Commissioning: 1mmx2、Dayone: 0.5mmx2)
  - SBT、ICBの順番
  - 標的ホルダー
  - その他まだ何かあるかも？